



気分爽快の大滝登攀

奥利根 越後沢右俣

藤岡

【日時】 2011年10月8日(土)～10日(日)

【メンバー】L藤岡司、栗原、手嶋

10/8(土) 晴れ

前夜三ツ石沢に入る木下・棚橋パーティと合流して翌朝矢木沢ダムへ向かう。ゲート手前は連休を奥利根で過ごす車が列を作っている。駐車場に着くとチーム84のKさんがいたので挨拶に行く。カヌーを漕いでアプローチするそうだ。我々は毎度おなじみ奥利根マリンの高柳さんの船に乗り込む。このところ工事の関係で水位を20mも落としているそうで、湖岸の側壁がむき出しになっている。小穂口どころか割沢までもゆかないうちにボートが底をするようになり、急な泥壁で船を下りてあとはひたすら泥の台地を歩く。油断しているとふくらはぎまで泥にはまって足が抜けなくなる。

ようやく本流にたどり着くと先日までの雨で増水して濁りが入っており川底が見えない。深さが判らないのでできるだけへつりながら右岸に行く。一箇所空荷でザックを受け渡した。

小穂口沢の出合からは踏み跡をたどる。途中高柳さんに教えてもらったポイントと思われるところで舞茸を探し回るがさっぱり見つからない。水位計のあるところから沢に下りる。

水はやっぱり冷たく底の見えない状況ではあまり水に浸かりたくないの、シッケイガマワシは左岸から高巻くことにした。1段上がると結構な巻きになってしまい、途中対岸に見える大きな滝を眺めながら沢に戻る。今日は越後沢の出合までなので気楽に休憩をしていると、カヌーを漕いできたKさん達が追いついてきた。ゴルジュも腰くらいまでで余裕で歩いてこれたそうだ。ほどなく越後沢出合に到着、Kさんパーティは今日は行けるところまで行って、明日中に湖岸まで戻るそうだ。我々は1段上がったさらに奥の絶好の天場にテントとタープを張り、明日の分まで2日分の薪を集める。残業しているKさんらには悪いがビールとぜいたくなつまみで登攀前夜の宴会だ。今回はテントにダウンまで持参しているので夜もぐっすりと眠れた。

10/9(土) 晴れ

今日は登攀の日。絶対にベースに帰り着き焚き火で宴会することを誓いあって、気合を入れて5:30に出発。ザックは二つにまとめたので手嶋さんは身軽に空荷だ。十分沢まではほんとに10分で着いて、30分ほどで中俣との出合。しばらくはゴーロを歩きと淵のへつりで越えてゆくと10mの直爆だ。登れそうにないので、少し戻って左岸のルンゼを少し上がり、栗原さんがロープを引いて悪い草付きのバンドをトラバース。その先は灌木をたどって沢床に戻る。

沢が左に曲がった先に雪渓が見える。50mほどのブリッジを1人ずつ走り抜けるが、心配していた雪渓処理はこの一箇所のみだった。

8mの滝を越えて大滝が望めるところで小休止。登攀中はゆっくり休むひまがないので、しっ

かりと行動食を取る。雪渓の残骸を過ぎると大滝下段が飛沫を上げている。

トボ通り左壁のひし形スラブの基部に立つ。傾斜もあり逆層で見上げると結構悪そうだ。登る気満々の栗原さんが空身になってロープを伸ばす。菱形の岩よりも右よりの中央のラインを登ってゆく。中段くらいまで順調に上がるがリスがないらしく、支点をとるのにかなり苦労している。浅打ちのハーケンで3箇所支点を取り上部の落ち口へ取り付くが、しっかりとした支点ではないので、さすがの栗原さんもかなり慎重になっていた。セカンドで取り付くがやはりホールドが細かく一步一步慎重に登る。支点のハーケンはハンマーで軽くたたくと簡単に抜けた。ひやひやしなながら落ち口に着き一安心。IV級となっているが、恐怖グレードが高くIV+くらいに感じた。



大滝下段と中段



中段を下から見上げる

先に中段取り付きまで下見に行こうとするが、下段と中段間の水流沿いはヌメヌメなので、念のため後続を待って一応ロープをつけて一跨ぎする。

中段下部は遠めには傾斜も緩くⅢ級程度に見えたのだが、取り付きから見上げるとそうでもなさそうだ。ここは私がリードさせてもらう。一段上がると傾斜は緩むが、ホールドが外傾しており意外にいやらしい。やはりハーケンを打つリスがなかなか見つからず支点を取るのに時間がかかる。上部は藪でロープの流れが悪く、ロープ一杯まで伸ばし、途中の太い灌木でピッチを切る。足元が斜めの狭い地面なのでセルフにぶら下がり後続をビレイする。下も上も大きな滝が続いており青空の下、爽快な登攀だ。

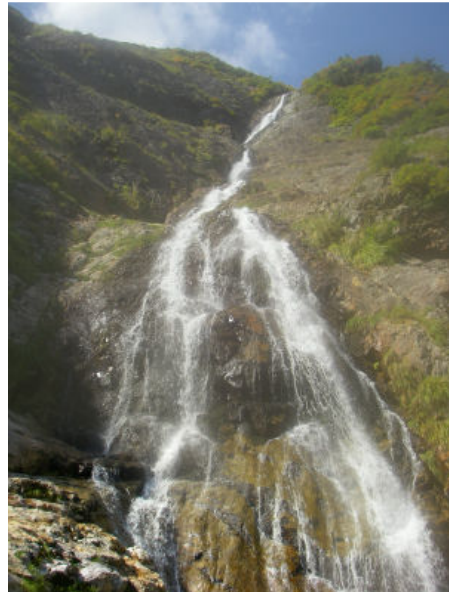
栗原さんに続いて登ってきた手嶋さんに、そのまま上部をリードしていただく。このピッチは灌木の垂直木登りが連続しており、快適な登りではないのでちょっと申し訳なかった。

中段の上に着くが早くもお昼を回っており、少々焦る。上段はほとんどロープなしで歩いて登れると思っていたのだが、取り付きの滝が立っておりどちらから登っても上部が悪そうだ。左壁の方がヌメリはあるが段々になっているので、タワシを持っている私が取り付いた。

ゴシゴシ岩についている苔を取りながら登ってゆくが、上部につれてホールドが小さくなり最後の一步で思い切りが出ない。サポートに上がってきた栗原さんからキャメを受け取り、甘く効いたカムを頼りに平らなところまで上がってロープをお助けにして後続を迎える。



中段 1P 終了点



上段を見上げる

そこから先はⅢ級程度の岩場をどんどんフリーで登る。疲れを知らない栗原さんと空身で軽快な手嶋さんの後を、ぜいぜい息を切らしながら付いてゆく。

最後の落ち口手前の傾斜が強くなっており、ザックを手嶋さんに預けた栗原さんがロープを引く。空身とはいえほとんど支点も取らずにぐいぐい登って行くが、フォローしてみるとそれなりに細かいホールドだった。

ようやく大滝の登攀が終わったが既に時刻は14:00だ。さあ明るいうちにベースにたどり着けるか？ 大急ぎで中間尾根を目指す支尾根に乗ってしまったようで、藪の中を行きつ戻りつして30分程度で尾根にのることができた。

あとは大急ぎで下るのみ。途中の岩場でクライムダウンをしたり、急な段差を回り込んだりで思ったほどはスピードが上がらない。しばらく下ると傾斜が落ちて、左右に右俣と中俣の大滝が良く見える。紅葉が始まっており、尾根から見る大滝はなかなかの見晴らしだ。

のんびりではできないので急ぎ下ってゆくが、足元が藪に覆われており場所によっては左右が切れ落ちているので地面を確認しながら降りてゆく。途中疲れてザックを手嶋さん持ってもらった。暗くなる寸前の17:30に中俣との出合に到着。

もう日没は時間の問題だが、ここから先は水にさえ浸かるのを我慢すれば、それほど悪い箇所がないのでペースを落としてゆっくりと下る。一箇所深い淵はえいやっと飛び込む。

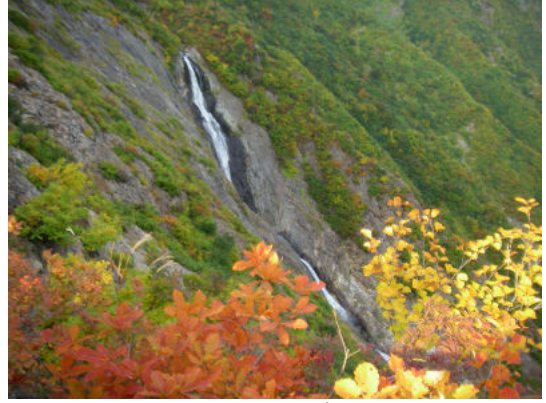
今回意地でもベースに戻るつもりでヘッドランプに加えてネットで2千円で購入した150ルー

メンの超明るいライトを持参している。途中で栗原さんがゴルジュにヘッドンを落としてしまったが、後ろからこのライトで照らしながら無事に歩きとおせた。

18:35、暗闇の中ついにベースにたどり着きがちりと握手！ 長い一日を終えることができた。その夜は盛大な焚き火と豪華な宴会第二弾で締めくくったのは言うまでもない。



中間尾根からの中俣大滝



登ってきた右俣

10/10(月) 晴れ

今日は下山のみ。11時に迎えを予約しているので7時半には出ようと思っていたのだが、だらだらとしてしまい結局8時前に出発。本流は減水しており濁りも取れて川底が見えているので気が楽だ。もう下るだけなのでじゃぶじゃぶ水につかって歩く。往きに高巻いたゴルジュも股下の渡渉であっけなく通り過ぎる。

約束の11時きっかりに湖岸に着いたのだがボートが見当たらない。当初13時の迎えを頼んでいたの勘違いされたのかと、あきらめて焚き火を熾してのんびりと待つ。

12時に高柳さんがやってきて話を聞くと10時に一度来たが見当たらなかったの、先に奈良沢へ入っている当会の木下パーティを迎えに行っていたらしい。ボートでダムまで戻り秋の奥利根山行は無事終了した。

今回5度目の奥利根。はじめて行った利根川本谷、中俣大滝の登攀、櫛又での釣りと焚き火、そして奥利根の主・佐貫さんで行ったいぶし銀の裏越後沢。

それぞれに思い出深い山行だったが、今回また奥利根の良さを深く感じたような気がする。深い谷、秋空の下快適な登攀、色づき始めた紅葉、そして焚き火と十二分に楽しませてもらった。今回充実した山行を共にさせてもらったメンバーに感謝です。

ただ時間的にはリミットを越えており、場合によっては尾根上ピバークの可能性もありえた。やはりこの時期に越後沢を目指すのであれば、もっとスピードアップして登れないといけないうでしょう。まだまだ奥利根には行きたい沢があるので毎年一回は目指してみたいと思います。



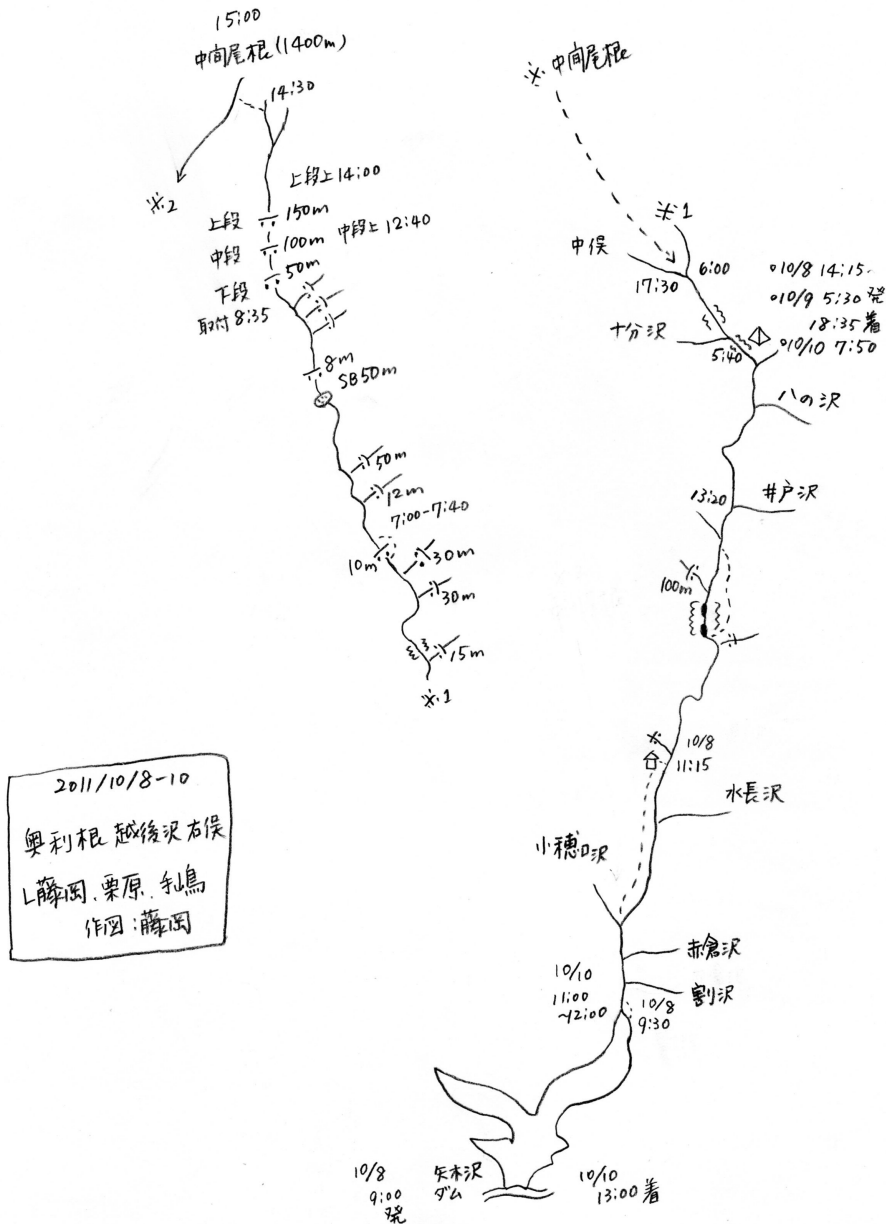
【グレード】5級（アプローチがボートなのでそれほどでもないと思いますが）

【地形図】 奥利根湖、兎岳

【行程】10/8(土) 矢木沢ダム(9:00)～湖岸(9:30)～雨量計(11:15)～越後沢出合BP(14:15)

10/9(日) BP(5:30)～中俣出合(6:00)～大滝下(8:35)～大滝上(14:00)～中間尾根(15:00)～中俣出合(17:30)～BP(18:35)

10/10(月) BP(7:50)～湖岸(11:00-12:00)～矢木沢ダム(13:00)



2011/10/8-10
 奥利根 越後沢右俣
 L 藤岡・栗原・杉鳥
 作図 藤岡